

日義村誌 原始・古代・中世・近世編目次

口 絵

村誌発刊のことば 日義村長 長渡 行雄
例 言

第一章 原始・古代の生活

第一節 遠い昔への思い

一 血が呼ぶルーツ 三

自分史 家の歴史 血のふるさと

二 考古学から探る 四

考古学 文化財保護法

時代区分

旧

石器時代 繩文時代 時代変遷と区分

弥生時代 古墳時代 飛鳥 奈良時代

平安時代 鎌倉時代以降

三 村内での遺跡調査 六

木曾の先駆者 信濃教育会西筑摩部会

研究者の来郡 戰後の考古学ブーム

村 内での発掘調査

四 木曾の遺跡分布と村内の遺跡 三

木曾の遺跡 村内の遺跡 村の地形

山間地の遺跡 段丘部の遺跡 木曾駒高

原部

五 遺跡を、自然を大事に 進む科学で 豊かな自然

第二節 山野に食料を求めて —旧石器・縄文時代—

一 北から南からの移動する人たち（旧石器時代） 云

大型獣を追つて

二 シカ イノシシを追つた人たち（縄文時代草創期

早期）

弓矢の発明 土器の発明 考古学のアル

ファベット 押型文土器

三 平底土器をつくった人たち（縄文時代前期） 云

安定した土器 灯のある家 縄文海進

山の土器 海の土器

四 雜木林の豊かな食料を求めた人たち（縄文時代中

期）

森は母 抛点のムラ マツバリムラ

キャンプ地 ムラの一年 積穴住居

飾られた土器	多量の石器	物 納	労役	兵役ほか	逃亡農民
五 川沿いのムラに住む人たち（縄文時代後期 晩期）	吾	容隠の輩	容隠の地		
第三節 気候の寒冷化 川沿いのムラ 一変した					
土器 縄文人 共同墓地 身体装飾					
第三節 農業にいどんだ人々 弥生 古墳時代	堯				
一 新天地を求める人々（弥生時代前期） 弥生人 中部高地への波及	堯				
二 中部高地と濃尾平野の交流（弥生時代中期） 平野の土器 高地の土器 大陸系石器	六				
三 農業技術の向上（弥生時代後期） 高原の遺跡 榆描き文の甕	畠				
四 ヤマト政権の進出（古墳時代 奈良時代） 首長から大王 古墳のない木曾 土師器 の発見	壹				
第四節 美濃国恵那郡から信濃国大吉祖荘へ 一 美濃国恵那郡絵上郷 古代は美濃国 恵那郡絵上郷 東山道と吉蘇路 東山道 木曽谷より伊那を 逃亡する駅子 逃亡する駅子	七				
第一 章 中世の動き		物 納	労役	兵役ほか	逃亡農民
第一節 中世の遺跡 義仲と木曾氏	一〇三	容隠の輩	容隠の地		
一 宮の原（元宿）遺跡 元宿 遺構 多い陶磁器 用途別陶磁 器 鉄器 鉄滓 渡来銭 二 お玉の森遺跡 遺構 遺物 三 元原遺跡 中世の地割 屋敷跡 陶磁器 その他 四 村内のほかの中世の遺跡	一〇五				

小沢原の地下式坑	中世陶磁器の出土
鉄鍋	古い地名
五 豊かな村	木曽路の宿 百姓は農民ではない
第二節 木曾義仲の生誕から没落まで	二八
一 概説	二八
二 義仲の生い立ちと日義村	二九
義仲の生い立ち 駒王丸木曾に逃れる	三三
中原兼遠の養育 元服後宮の原の館に移る	三五
三 以仁王の令旨	三六
1 平氏打倒の動き	三六
保元 平治の乱 鹿の谷の謀議 後白河法皇と清盛の確執 平氏政権の危機	三七
行家の経路	三七
2 以仁王國城寺に逃れる	三八
以仁王の危機 園城寺攻め 六波羅攻め 山門牒状と南都牒状 平等院の戦	三九
3 義仲の挙兵と社会背景	三九
義仲の挙兵と源氏の動き 市原の戦	三九
義仲上野国にはいる 義仲の武士団	四〇
四 義仲の上洛進路	四〇
1 木曾から依田城へ	四〇
2 横田河原の戦	四〇

『玉葉』に見る戦の記述 義仲の武士団	3 義仲越後の国府に入る
越前水津の戦 城資永出羽に逃れる	4 義仲と在地領主
義仲の下文 義仲の在地領主支配 得田文書	5 義仲と頼朝不和となる
武田信光の讒言 頼朝十万余騎で信濃に向う	6 般若野と俱利伽羅峠の戦
般若野の戦 俱利伽羅峠の戦 木曾願書	7 篠原の戦
砥浪山の合戦	8 木曾山門牒状と返牒
手塚太郎光盛 斎藤別当実盛を討つ	山門牒状 百濟寺義仲に兵米を送る
山門牒状と南都牒状 平等院の戦	山門僉議牒状
1 義仲の入京	5 義仲の入京と栄進
平家山門連署 義仲勢比叡山に登る	1 義仲の入京
2 平家の都落	2 平家の都落
後白河法皇比叡山に身を隠す 六波羅西八条灰燼となる	3 義仲、院宣を奉り京中を支配する
義仲 行家法皇に拝謁 義仲京中を守護する	3 義仲、院宣を奉り京中を支配する
京中の狼藉 都の飢饉	京中の狼藉 都の飢饉

4 義仲の栄進	家 根井行親 橋口次郎兼光 今井
5 朝日將軍の称号を賜る	四郎兼平 楠六郎親忠 齋藤別当実盛
5 以仁王の御子と義仲	大夫坊寛明 義仲の兄仲家 義仲の妻
北陸宮	伊予 義仲の妹宮菊 巴御前 山吹姫
北陸宮の消息	葵御前
6 賴朝の密奉	附録
7 水島の合戦	木曾氏の系譜 木曾義仲年表
8 法住寺合戦	第三節 木曾氏とその子孫
9 義仲都を発つ	一 概説
10 法住寺合戦	二 義仲の子ども
11 戰の誘因	1 清（志）水冠者義高（隆）
12 今井四郎兼平の忠告	人質として鎌倉へ 義高鎌倉から逃れる
13 の嘆き	大姫義高の死を悲しむ 義高と「吾妻
14 法住寺攻めの真相	鏡」の謎 義高の首塚 義高生存説
15 合戦の顛末	2 義重（二男）
16 義仲と賴朝の対決	3 義重の系譜 鬼無里の安吹屋に隠れる
17 後白河法皇の策謀	4 義基（三男）
18 賴朝に上洛を促す	5 義宗（四男）
19 法皇王朝存続に不安	6 鞠子
20 を抱く	7 二代将軍賴家との関係 竹の御方と將軍
21 義仲平氏と和平を策す	8 暈代の木曾氏
22 義仲の最後	9 木曾義仲の評価（史観と人物像）
23 征夷大將軍の宣言	10 義仲史観と人物像
24 貴女の遺を惜しむ	七 義仲をめぐる人々
25 粟津原の決戦	1 源義賢 小枝御前 中原兼遠 源行
26 「平家物語」に見る記述の特徴	2 基家（四代）
27 木曾義仲の評価（史観と人物像）	3 1 義茂（三代）
28 義仲史観と人物像	4 木曾義仲の評価（史観と人物像）
29 七 義仲をめぐる人々	5 木曾義仲の評価（史観と人物像）
30 源義賢 小枝御前 中原兼遠 源行	6 木曾義仲の評価（史観と人物像）

三 暈代の木曾氏	一七七
1 義茂（三代）	一七八
2 基家（四代）	一七八
3 木曾義仲の評価（史観と人物像）	一七八
4 木曾義仲の評価（史観と人物像）	一七八
5 木曾義仲の評価（史観と人物像）	一七八
6 木曾義仲の評価（史観と人物像）	一七八
7 木曾義仲の評価（史観と人物像）	一七八
8 木曾義仲の評価（史観と人物像）	一七八
9 木曾義仲の評価（史観と人物像）	一七八
10 義仲史観と人物像	一七八
11 義仲をめぐる人々	一七八
12 源義賢 小枝御前 中原兼遠 源行	一七八
13 木曾義仲の評価（史観と人物像）	一七八
14 義仲史観と人物像	一七八
15 七 義仲をめぐる人々	一七八
16 源義賢 小枝御前 中原兼遠 源行	一七八
17 義仲史観と人物像	一七八
18 七 義仲をめぐる人々	一七八
19 源義賢 小枝御前 中原兼遠 源行	一七八
20 義仲史観と人物像	一七八
21 七 義仲をめぐる人々	一七八
22 源義賢 小枝御前 中原兼遠 源行	一七八
23 義仲史観と人物像	一七八
24 七 義仲をめぐる人々	一七八
25 源義賢 小枝御前 中原兼遠 源行	一七八
26 義仲史観と人物像	一七八
27 七 義仲をめぐる人々	一七八
28 源義賢 小枝御前 中原兼遠 源行	一七八
29 義仲史観と人物像	一七八
30 七 義仲をめぐる人々	一七八

3 家仲（五代）	に走る 貞慶、義昌の虚を突く 妻籠
4 家教（六代）	城の戦い 小田原北条攻め 綱戸に移
5 家村（七代）	封となる 木曾義昌の晩年
本領の木曾を安堵される 家村と莊園領	
主 家村の子ども 長男義親 次男	
家昌 三男家景 四男家光（満）	
五男家重	
6 家道（八代）	
7 家頼（九代）	
8 家親（十代）	
9 親豊（十一代）	
10 信道（十二代）	
11 豊方（十三代）	
12 家賢（十四代）	
13 家豊（十五代）	
14 義元（十六代）	
15 義在（十七代）	
黒川三郎の養育を受ける 義在の妻と小笠原氏	
16 義康（十八代）	
武田氏と接触 信玄の木曾侵略 小沢	
17 義昌（十九代）	
武田家との盟約を破棄する 鳥居峠の戦 川の戦	
い 岩姫処刑 義昌深志城主となる 德川家康と盟約を結ぶ 家康と離れ秀吉	

第三章 近世の村の生活

第一節 木曾の幕藩支配の成立	
一 織豊政権と木曾	三三
近世とはいつのことか 信長 秀吉と木曾	三三
二 徳川政権と木曾	三三
徳川家康と木曾衆 尾張藩領への変化と山村氏	三三
三 村のしくみと村政	
村のしくみと村役人 宮越村と原野村の村役人 村役人一年間の主な働き 多忙な生活の一端から 落馬負傷者の対応に苦慮負担の大きい公役 村役 村の財政とやりくり キリスト教禁制で宗門攻め 「松本大変」の浪人家族が宮越村へ	三三

第四節 木曾氏の改易とその家臣	一四二
一 改易後の木曾氏とその家臣	一四二
義昌従士名 木曾氏の旧領と山村氏	一四二
義利追放となる 義昌の室真龍院	一四二

四 年貢と検地	木曾谷住民への初期の年貢	木曾の木年貢	二八
	享保九年の検地と宮越村原野村		
	納物 木年貢の廃止	綿布役銀による備荒	
	貯畜		
第二節 街道と宿場			
一 中山道と宿場の成立	幹線道路としての中山道	宮越宿が設けられる	二九
	一里塚 高札と掃除の分担	宿駅	
	のしくみと働き		
(1) 問屋			
(2) 年寄			
(3) 帳付 馬指 人足指			
(4) 宿役人への手当			
二 伝馬役と人足役			
負担の重い宿の人馬継ぎ立て	伝馬 人足		
の賃錢 伝馬改めと飼育の苦労	原野と		
菅が木曾寄人馬で応援 上四宿の助郷は隣			
の筑摩郡から			
三 休泊施設と通行			
本陣 旅籠屋と休泊費用	宿場はマチでも		
あつた 大通行で宿場は大変 大名にそ			
ばきりを振る舞う 善光寺本尊も遊行上人			
も通つた 姫君たちの通行			
四 権兵衛峠			

権兵衛峠の開削 峠路の開通と物資流通
萱ヶ平に番所を置く

五 牛方たちの働き 神谷の牛方のしくみと働き 牛馬士たちの要求 神谷の困窮と文之丞の直訴 出入り（争い）二件

(1) 牛の売買をめぐつて
(2) 牛士と馬士の争い

第三節 木曽山と住民

一 木曽山と林政

木曽山支配の始まり 上松に材木役所が置かれる 林業労務者は杣と日用 育林事業に力を入れる 木曽山 五木の取り締まり 原野村と宮越村の山林 本丸材 伊勢遷宮材に関わる村の檜 木曽谷中の鉄砲攻め

二 山と住民の生活

明山 草山を頼りに 御免木とその移り変わり お札木で橋を架ける 家作木 葦板と薪炭材の採取 漆の植樹と育成に力を入れる 巣山の設定と鷹と巣主 白木葺板の抜け荷事件 村方役人 山方役人の接待

三六

第四節 村内外と家での生活

三八四

で一件落着と費用

一 農業と生活

三八五

農民への取り締まり

農民の一年間の生活

三八六

一年間の仕事

(1) 養蚕

(2) 薪炭

(3) 災害

食料を補う切畑 焚畑 木曽谷の産物

用水の開削と新田開発

(1) 征矢野勘左衛門による開発

(2) 征矢野勘左衛門による開発

(3) 征矢野三羽の開発

(4) 斎藤半左衛門の開発

原野村内の僕約申し合わせ 幕末における

宮越村のとりきめ

二 木曽馬の生産と馬市

三八七

木曽の毛付馬の制度 人気の高い木曽の牝

馬 神谷と荻曽村の馬をめぐる争い

三 農間稼ぎ

三八八

村の人々の諸稼ぎ 外稼ぎに出た大工や木

挽 大工頭と木曽の大工仲間 大工職と

木挽職の諸届 牛稼ぎは「岡船」と呼ばれた

四 鍋沢杣死亡事件の顛末

三八九

甲州鍋沢で事件発生 宮越宿役人を江戸へ

呼び出し 江戸の奉行所での吟味 判決

五 人別改帳 女手形控帳からみた村の姿

三八九

縁組で家の継続 家族と掛り人 村の子

どもの姿 女性の地位は低かつた 奉公

に出来る娘たち 奉公人の死 寺

子屋で学ぶ子どもたち

六 災害 飢饉を乗り越えて

三九〇

宿場には火災が多かつた 防火対策と幕藩

の布令 嘆願書と藩の救恤措置 記録に

みえる水害や冷害 水害や冷害による凶作

と飢饉

(1) 寛永の飢饉

(2) 明和の木曽騒動

(3) 享保の飢饉

(4) 天明の飢饉

(5) 天保の飢饉

第五節 信仰の姿

三九一

一 村の鎮守と檀那寺

三九二

義仲城山を背に南宮神社 義仲旗挙げの八

幡社 原野村村社の八幡宮 義仲の菩提

寺の徳音寺 中原兼遠の菩提寺の林昌寺

神主の神道葬願をめぐつて

二 村人の多彩な信仰

三九三

三十三所観音札所（靈場）巡礼信仰 馬頭

観音と大日如来の信仰 庚申信仰が盛ん

執筆者

関係者名簿

五五

地蔵信仰の広がり	伊勢信仰と御師たち	四七二
三 信仰と行楽の旅	旅の支度と持ち物	往来手形が必要だった
木曽谷住民用の日帰り女手形	宮越女性の	
社寺参詣と湯治		

あとがき

社寺参詣と湯治

第六節 幕末の動乱の中で

一 幕藩体制の破局

開国と政局の転換

皇妹和宮降嫁で中山道

通過 下級武士の抬頭と幕府の衰退

征

東軍の木曽通過

二 戊辰戦争下の原野と宮越

北越戦争での尾張藩と木曽

尾張藩

松代

藩などの進攻 宮越宿千村宅右衛門の活躍

北越戦争の進展

三 村の困窮化と新しい動き

北越戦争で村の困窮化進む 上四宿を巻き

こんでの木曽騒動

第七節 文献にみる近世の「日義村」

「吉蘇志略」の原野と宮越 「木曽巡行記」
の原野 宮越 「中山道宿村大概帳」にみ
る宮越宿と原野村

四六